

第 1 章

令和2年の福島県経済の概況

第1章 令和2年の福島県経済の概況

1 概要

【総合判断】

令和2年(2020年)の福島県経済は、建設需要や金融情勢が堅調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により個人消費や生産、雇用・労働が悪化し、全体としては厳しい状況が続いた。

令和2年の福島県の経済を振り返ると、建設需要において東日本大震災や令和元年東日本台風からの復旧・復興工事などの増加傾向が見られたものの、3月以降新型コロナウイルス感染症の影響により個人消費や生産活動、雇用・労働が悪化し、全体としては厳しい状況となった。

建設需要をみると、公共工事請負金額及び業務用建築物着工工事費は前年を大きく上回り、新設住宅着工戸数は前年を下回った。

生産活動をみると、鉱工業指数(原指数)は悪化し、生産指数、出荷指数ともに前年を下回った。

雇用・労働をみると、常用雇用指数が前年を上回ったものの、新規求人倍率や有効求人倍率、所定外労働時間指数などは前年を下回った。

2 個別指標の国と福島県の比較

令和2年の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により外出の自粛が進み、国内の経済活動は大幅に抑制されることになった。

また、外国経済の停滞により、輸出も急減し4-6月期の実質GDPはリーマンショック時を超える過去最大の減少となった。

このような状況を踏まえ、令和2年における個別指標について福島県と全国の前年比を比較することで、福島県の特性を確認する。

公共工事及び業務用建築物着工工事費では、全国の上昇幅よりプラス幅が大きくなった。また、百貨店・スーパー販売額などは、全国が前年比マイナスであったのに対し、プラスとなった。

一方、乗用車新規登録台数や現金給与総額指数及び所定外労働時間指数などは、全国の上昇幅よりさらにマイナスとなった。また、金融機関預金残高及び金融機関貸出残高などは全国の上昇幅よりプラス幅が小さかった。

(図1-2-1、表1-2-1)

図1-2-1 令和2年個別指標の前年比レーダーチャート

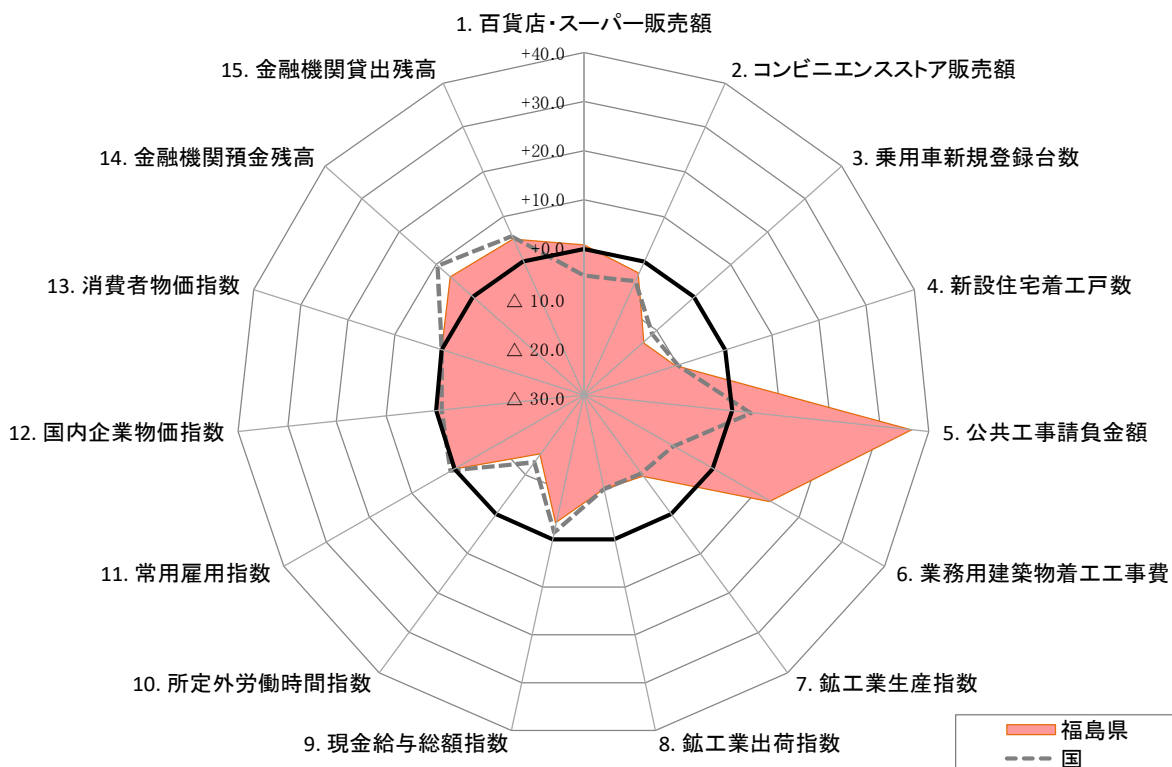


表1-2-1 令和2年個別指標の前年比及び差

個別指標		国 (前年比%)	福島県 (前年比%)	差(県-国) (ポイント)
個人消費	1. 百貨店・スーパー販売額	△ 5.4	+0.9	+6.3
	2. コンビニエンスストア販売額	△ 4.4	△ 2.7	+1.7
	3. 乗用車新規登録台数	△ 11.4	△ 13.8	△ 2.4
建設需要	4. 新設住宅着工戸数	△ 9.9	△ 10.6	△ 0.7
	5. 公共工事請負金額	+3.8	+36.4	+32.6
	6. 業務用建築物着工工事費	△ 9.2	+13.3	+22.5
生産活動	7. 鉱工業生産指数	△ 10.4	△ 9.6	+0.8
	8. 鉱工業出荷指数	△ 10.6	△ 10.5	+0.1
労働	9. 現金給与総額指数	△ 1.2	△ 3.3	△ 2.1
	10. 所定外労働時間指数	△ 13.2	△ 15.1	△ 1.9
	11. 常用雇用指数	+1.0	+0.5	△ 0.5
物価	12. 国内企業物価指数	△ 1.2	—	—
	13. 消費者物価指数	+0.0	+0.1	+0.1
金融	14. 金融機関預金残高	+9.6	+6.1	△ 3.4
	15. 金融機関貸出残高	+5.7	+4.9	△ 0.8

※国内企業物価指数は国の値のみ、消費者物価指数は福島市の調査結果。
 ※令和2年の各指標の前年比について、景気に対して累進性(増加することで景気が回復しているとみられる)がある指標をレーダーチャートで表した。景気に対して逆進性(増加することで景気が後退しているとみられる)がある指標、前年比ではなく前年差でみる指標などについては、P.6以降を参照。
 ※端数処理のため、差(県-国)の値が一致しないことがあります。

3 福島県経済の四半期別の概要

【個人消費】

百貨店・スーパー販売額(全店舗ベース)は、第1四半期を除き前年を上回った。

コンビニエンスストア販売額は、第1四半期を除き前年を下回った。

乗用車新規登録台数は、全期で前年を下回った。

【建設需要】

新設住宅着工戸数は、第1四半期を除き前年を下回った。

公共工事請負金額は、第1四半期を除き前年を上回った。

業務用建築物着工工事費は、第2四半期を除き前年を上回った。

【生産活動】

鉱工業生産指数(季節調整済指数)は、第2四半期を除き前期を上回った。

鉱工業出荷指数(季節調整済指数)は、第2四半期を除き前期を上回った。

【労働】

現金給与総額指数は、全期で前年を下回った。

所定外労働時間指数は、全期で前年を下回った。

常用雇用指数は、第4四半期を除き前年を上回った。

【物価】

国内企業物価指数は、第1四半期を除き前年を下回った。

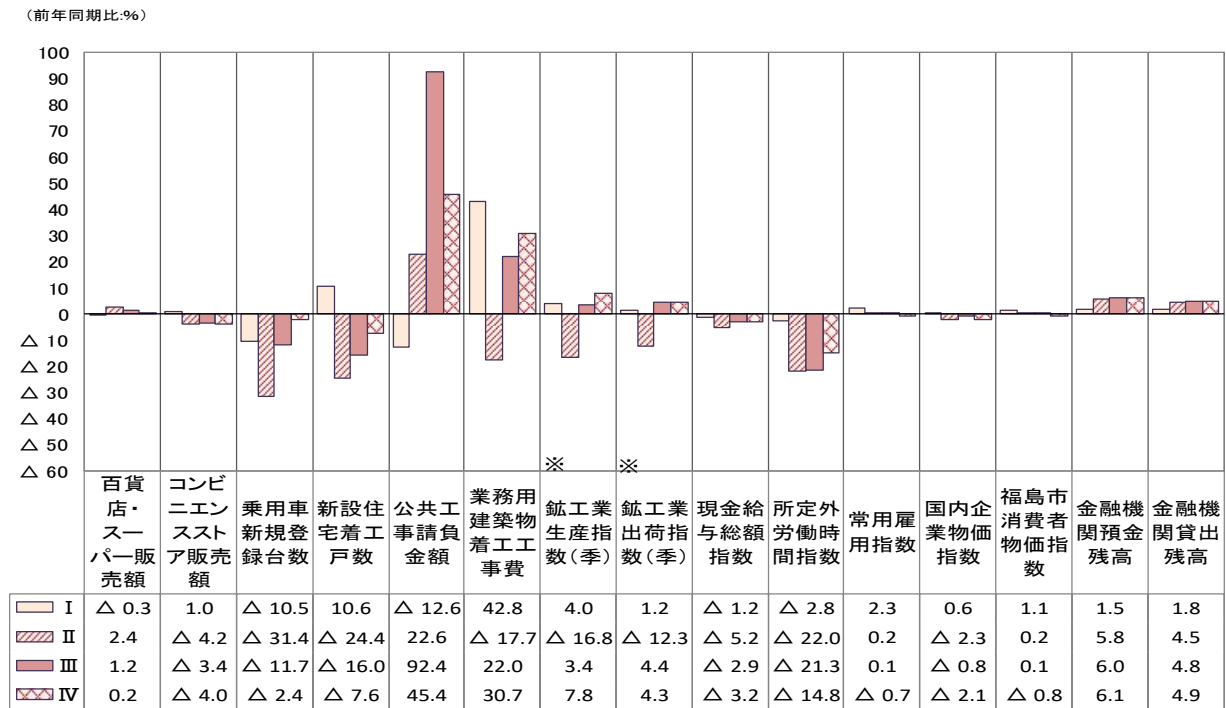
福島市消費者物価指数は、第4四半期を除き前年を上回った。

【金融】

金融機関預金残高は、全期で前年を上回った。

金融機関貸出残高は、全期で前年を上回った。

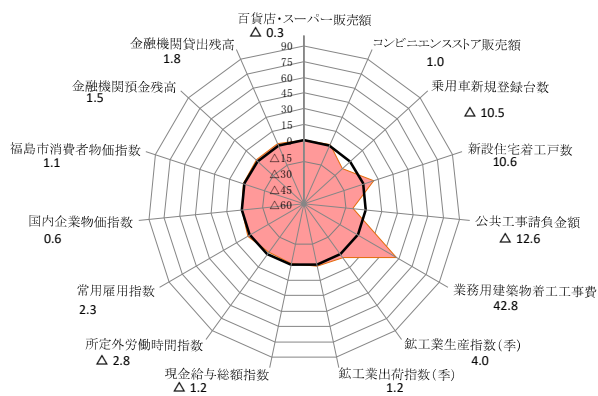
図1-3-1 主要指標毎の前年同期比の推移



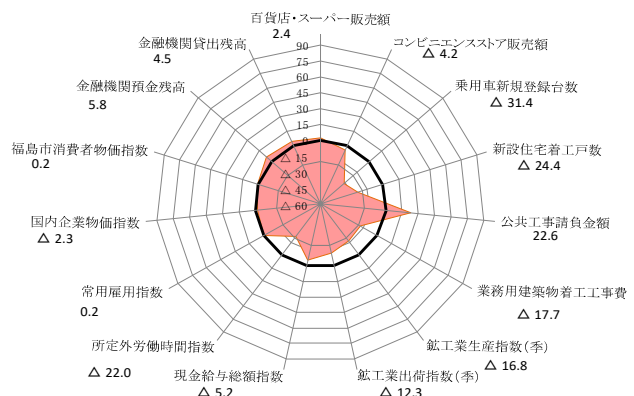
※ 鉱工業生産指数及び鉱工業出荷指数は前期比。

図1-3-2 主要指標の四半期毎前年同期比のレーダーチャート

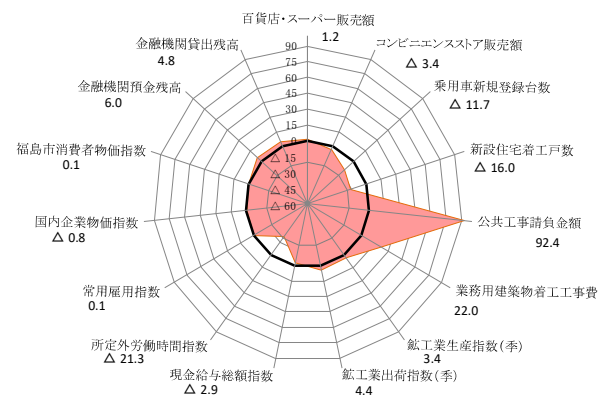
県(第1四半期平均)



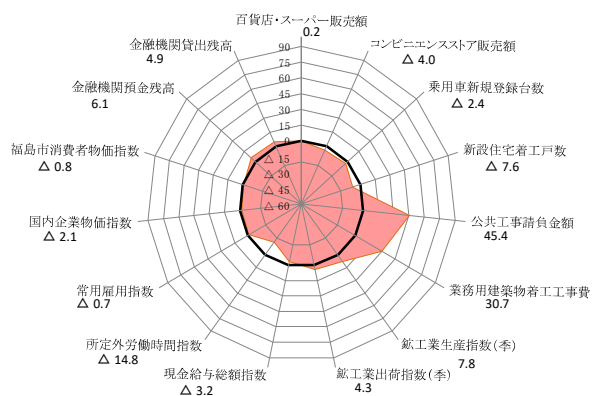
県(第2四半期平均)



県(第3四半期平均)



県(第4四半期平均)



4 主要な個別指標の概要

○ 指標名及びグラフのマーカーの色の見方について

- 1 指標名の色について、年値が前年と比較して、改善している指標は緑字、悪化している指標は赤字、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色で表しています。
- 2 グラフのマーカーの色について、四半期値が前年同期(前期)と比較して、改善している指標は緑色(■)、悪化している指標は赤色(■)、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色(■)で表しています。「前期」と比較している指標は「鉱工業指数、求人倍率、パートタイム労働者比率、貸出約定平均金利、日経平均株価、円相場、景気動向指数」
- 3 第1四半期は「1～3月期」、第2四半期は「4～6月期」、第3四半期は「7～9月期」、第4四半期は「10～12月期」です。

個人消費

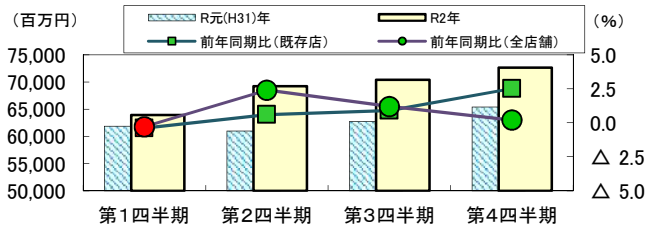


新型コロナウイルス感染症の影響により悪化した。

- (1) **百貨店・スーパー販売額**は全店舗ベースで総額2,761億48百万円、前年比0.9%増となり、2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.14に掲載 】

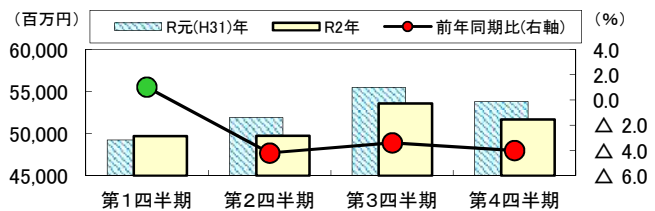
	販売額	(単位:百万円,%)	
		前年同期比 前年比(全店舗)	前年同期比 前年比(既存店)
第1四半期	63,949	△ 0.3	△ 0.4
第2四半期	69,201	2.4	0.6
第3四半期	70,384	1.2	0.9
第4四半期	72,614	0.2	2.5
R2年	276,148	0.9	0.9



- (2) **コンビニエンスストア販売額**は総額約2,047億円、前年比2.7%減となり、2年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.16に掲載 】

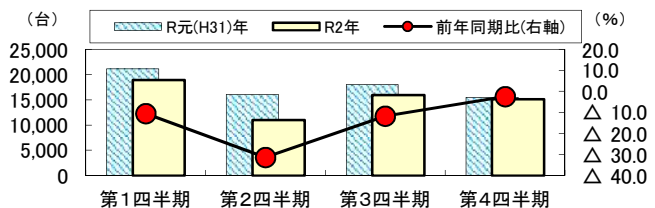
	販売額	(単位:百万円,%)	
		前年同期比 前年比	
第1四半期	49,708	1.0	
第2四半期	49,729	△ 4.2	
第3四半期	53,578	△ 3.4	
第4四半期	51,685	△ 4.0	
R2年	204,700	△ 2.7	



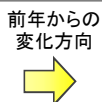
- (3) **乗用車新規登録台数**は60,941台、前年比13.8%減となり、2年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.18に掲載 】

	登録台数	(単位:台,%)	
		前年同期比 前年比	
第1四半期	18,922	△ 10.5	
第2四半期	11,012	△ 31.4	
第3四半期	15,927	△ 11.7	
第4四半期	15,080	△ 2.4	
R2年	60,941	△ 13.8	



建設需要

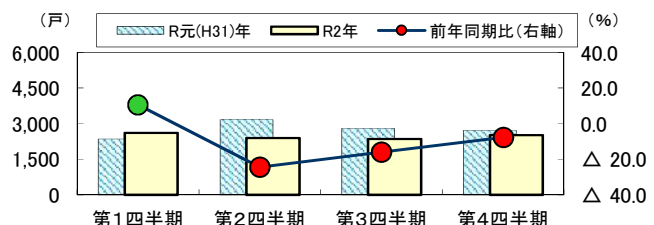


東日本大震災の復興需要及び令和元年東日本台風の復旧需要を背景として高水準にあるものの、民間の建設需要に一部弱い動きがみられた。

- (1) **新設住宅着工戸数**は9,868戸、前年比10.6%減となり、4年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.20に掲載 】

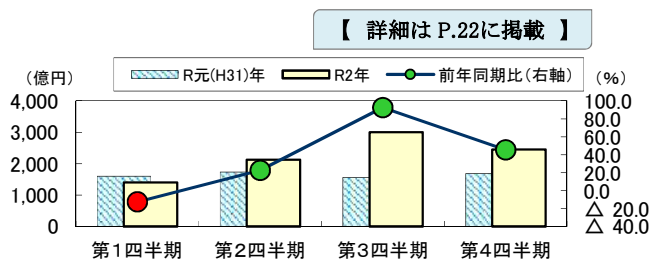
	着工戸数	(単位:戸,%)	
		前年同期比 前年比	
第1四半期	2,613	10.6	
第2四半期	2,393	△ 24.4	
第3四半期	2,351	△ 16.0	
第4四半期	2,511	△ 7.6	
R2年	9,868	△ 10.6	



- (2) **公共工事請負金額**は総額約8,964億円、前年比36.4%増となり、2年連続で前年を上回った。

(単位: 億円、%)

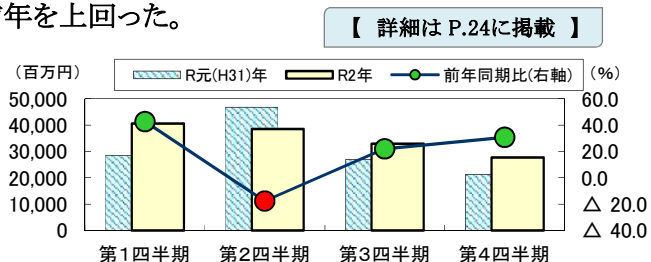
	請負金額	前年同期比 前年比
第1四半期	1,400	△ 12.6
第2四半期	2,123	22.6
第3四半期	2,998	92.4
第4四半期	2,442	45.4
R2年	8,964	36.4



- (3) **業務用建築物着工工事費**は総額約1,399億9百万円、前年比13.3%増となり、3年振りに前年を上回った。

(単位: 百万円、%)

	着工工事費	前年同期比 前年比
第1四半期	40,607	42.8
第2四半期	38,561	△ 17.7
第3四半期	32,989	22.0
第4四半期	27,752	30.7
R2年	139,909	13.3



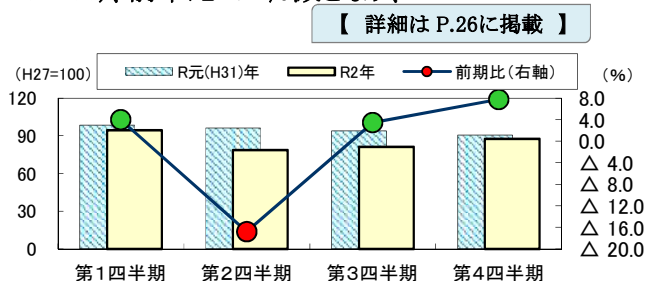
生産活動 前年からの
変化方向

新型コロナウイルス感染症の影響により悪化した。

- (1) **鉱工業生産指数(原指数)**は85.4(H27=100)、前年比9.6%減となり、2年連続で前年を下回った。

(単位: H27=100、%)

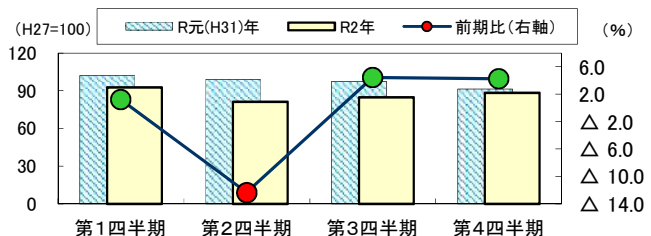
	生産指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	94.3	4.0
第2四半期	78.5	△ 16.8
第3四半期	81.2	3.4
第4四半期	87.5	7.8
R2年	85.4	△ 9.6



- 鉱工業出荷指数(原指数)**は86.9 (H27=100)、前年比10.5%減となり、2年連続で前年を下回った。

(単位: H27=100、%)

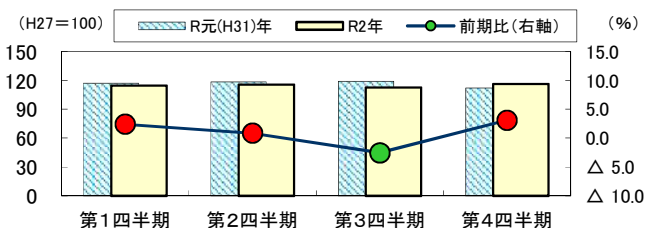
	出荷指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	92.5	1.2
第2四半期	81.1	△ 12.3
第3四半期	84.7	4.4
第4四半期	88.3	4.3
R2年	86.9	△ 10.5



- 鉱工業在庫指数(原指数)**は114.8 (H27=100)、前年比1.5%減となり、3年振りに前年を下回った。

(単位: H27=100、%)

	在庫指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	114.7	2.4
第2四半期	0.0	0.9
第3四半期	112.8	△ 2.5
第4四半期	116.3	3.1
R2年	114.8	△ 1.5



雇用・労働

前年からの
変化方向



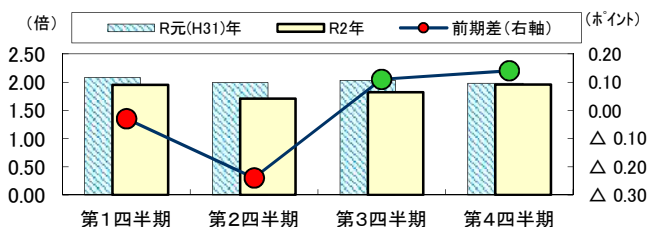
新型コロナウイルス感染症の影響により悪化した。

- (1) **新規求人倍率(原数値)**は1.85倍、前年差0.19ポイント下降し、4年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.30に掲載 】

(単位:倍、ポイント)

	倍率	前期差 前年差
第1四半期	1.95	△ 0.03
第2四半期	1.71	△ 0.24
第3四半期	1.82	0.11
第4四半期	1.96	0.14
R2年	1.85	△ 0.19

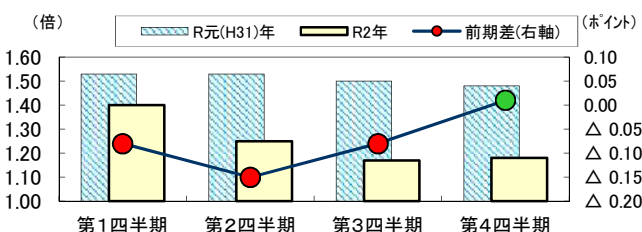


- (2) **有効求人倍率(原数値)**は1.25倍、前年差0.26ポイント下降し、4年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.32に掲載 】

(単位:倍、ポイント)

	倍率	前期差 前年差
第1四半期	1.40	△ 0.08
第2四半期	1.25	△ 0.15
第3四半期	1.17	△ 0.08
第4四半期	1.18	0.01
R2年	1.25	△ 0.26

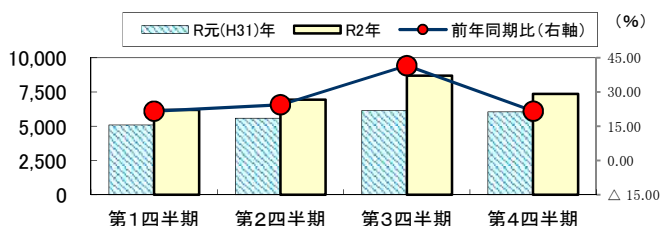


- (3) **雇用保険(基本手当基本分)受給者実人員**は年間平均で7,300人、前年比27.7%増となり、3年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.34に掲載 】

(単位:人、%)

	受給者実人員	前年同期比 前年比
第1四半期	6,198	21.6
第2四半期	6,946	24.4
第3四半期	8,692	41.5
第4四半期	7,366	21.8
R2年	7,300	27.7

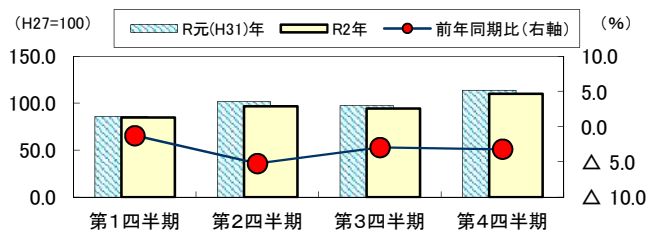


- (4) **現金給与総額指数(事業所規模5人以上)**は96.4、前年比3.3%減となり、2年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位:H27=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	84.6	△ 1.2
第2四半期	96.6	△ 5.2
第3四半期	94.4	△ 2.9
第4四半期	110.1	△ 3.2
R2年	96.4	△ 3.3

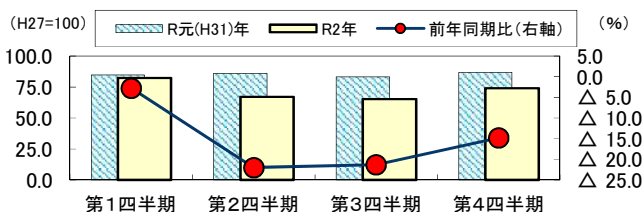


- (5) **所定外労働時間指数(事業所規模5人以上)**は72.3、前年比15.1%減となり、2年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位:H27=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	82.3	△ 2.8
第2四半期	67.2	△ 22.0
第3四半期	65.4	△ 21.3
第4四半期	74.1	△ 14.8
R2年	72.3	△ 15.1

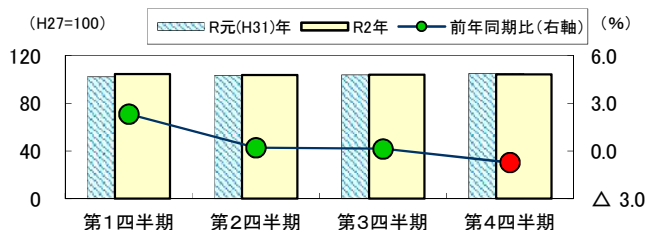


- (6) **常用雇用指数(事業所規模5人以上)**は104.0、前年比0.5%増となり、6年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.38に掲載 】

(単位:H27=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	104.5	2.3
第2四半期	103.5	0.2
第3四半期	103.9	0.1
第4四半期	104.1	△ 0.7
R2年	104.0	0.5

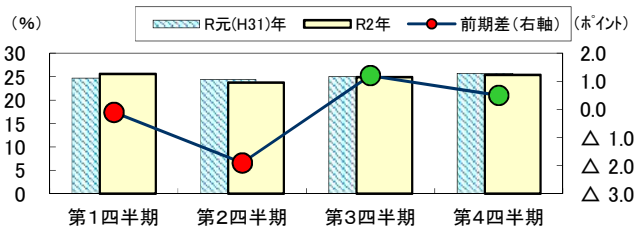


- (7) **パートタイム労働者比率(事業所規模5人以上)**は24.9%、前年差0.1ポイント下降し、3年振りに前年を下回った。

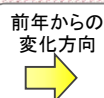
【 詳細は P.38に掲載 】

(単位: %、ポイント)

	労働者比率	前期差 前年差
第1四半期	25.6	△ 0.1
第2四半期	23.7	△ 1.9
第3四半期	24.9	1.2
第4四半期	25.4	0.5
R2年	24.9	△ 0.1



物 価



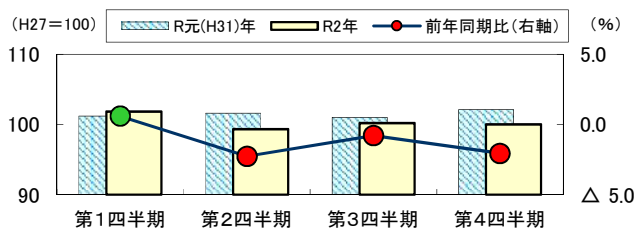
企業物価指数は下降し、消費者物価指数は上昇した。

- (1) **国内企業物価指数(総平均)**は100.3、前年比1.2%減となり、4年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.40に掲載 】

(単位:H27=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	101.8	0.6
第2四半期	99.3	△ 2.3
第3四半期	100.2	△ 0.8
第4四半期	100.0	△ 2.1
R2年	100.3	△ 1.2

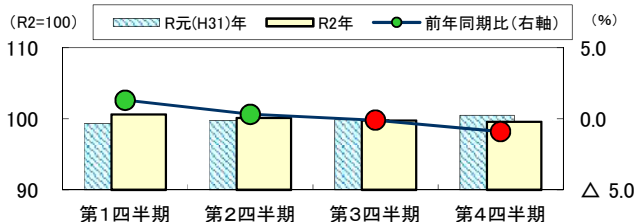


- (2) **福島市消費者物価指数(総合)**は100.0、前年比0.1%増となり、4年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.42に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	100.6	1.3
第2四半期	100.1	0.3
第3四半期	99.8	△ 0.1
第4四半期	99.6	△ 0.9
R2年	100.0	0.1



企業・金融

前年からの
変化方向



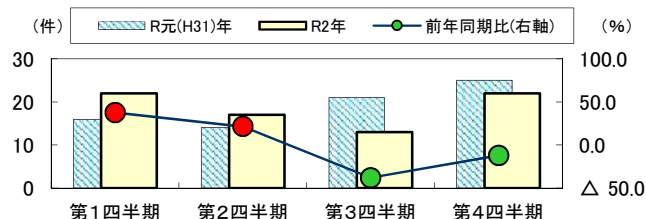
新型コロナウイルス感染症に対する公的支援策などにより倒産件数及び負債総額は前年を下回った。
預金残高及び貸出残高は前年を上回った。

- (1) **企業倒産件数**は74件、前年比2.6%減となり、
2年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.44に掲載 】

(単位: 件、%)

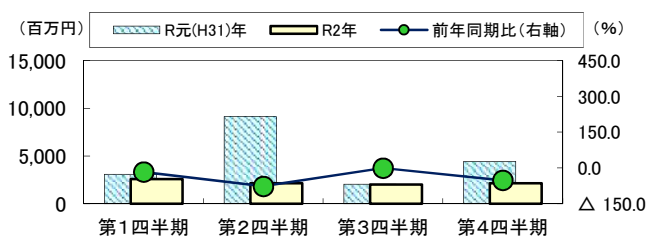
	件数	前年同期比 前年比
第1四半期	22	37.5
第2四半期	17	21.4
第3四半期	13	△ 38.1
第4四半期	22	△ 12.0
R2年	74	△ 2.6



- 企業倒産負債総額**は88億86百万円、前年比52.5%減となり、
2年連続で前年を下回った。

(単位: 百万円、%)

	負債総額	前年同期比 前年比
第1四半期	2,575	△ 16.9
第2四半期	2,156	△ 76.4
第3四半期	2,023	△ 0.5
第4四半期	2,132	△ 51.8
R2年	8,886	△ 52.5

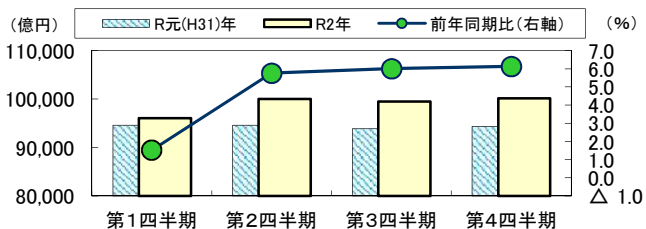


- (2) **金融機関預金残高**は総額10兆141億円、前年比6.1%増となり、
2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.48に掲載 】

(単位: 億円、%)

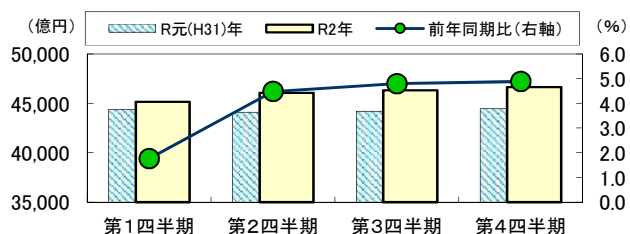
	預金残高	前年同期比 前年比
第1四半期	96,068	1.5
第2四半期	100,022	5.8
第3四半期	99,491	6.0
第4四半期	100,141	6.1
R2年	100,141	6.1



- 金融機関貸出残高**は総額4兆6,630億円、前年比4.9%増となり、
10年連続で前年を上回った。

(単位: 億円、%)

	貸出残高	前年同期比 前年比
第1四半期	45,170	1.8
第2四半期	46,066	4.5
第3四半期	46,313	4.8
第4四半期	46,630	4.9
R2年	46,630	4.9

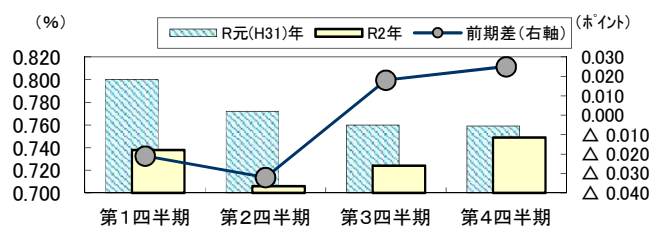


- (3) 貸出約定平均金利は地方銀行で0.749%、前年差0.01ポイント下降となった。

【 詳細は P.50に掲載 】

(単位: %、ポイント)

	金利	前期差 前年差
第1四半期	0.738	△ 0.021
第2四半期	0.706	△ 0.032
第3四半期	0.724	0.018
第4四半期	0.749	0.025
R2年	0.749	△ 0.010



市場

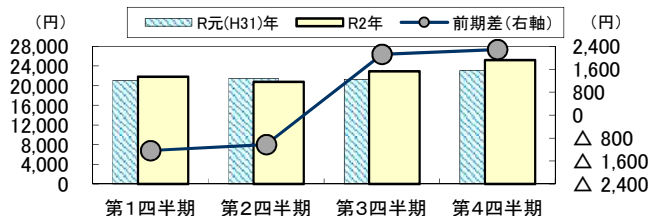
株価は上昇し、円相場は円高となった。

- (1) 東証一部日経平均株価(225種、期中平均値)は22,705円2銭、前年差1,007円79銭高となり、2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.52に掲載 】

(単位: 円)

	株価	前期差 前年差
第1四半期	21,808.90	△ 1,232.66
第2四半期	20,784.70	△ 1,024.20
第3四半期	22,906.34	2,121.64
第4四半期	25,194.43	2,288.09
R2年	22,705.02	1,007.79

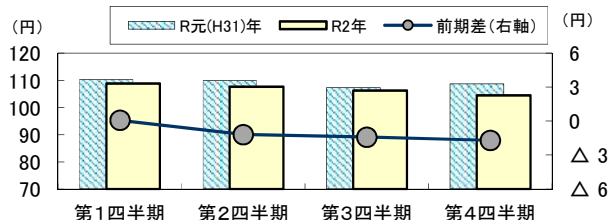


- (2) 東京外国為替市場の円相場(対米ドル、期中平均値)は106円73銭、前年差2円26銭高となり、3年連続で円高となった。

【 詳細は P.52に掲載 】

(単位: 円)

	円相場	前期差 前年差
第1四半期	108.79	0.07
第2四半期	107.61	△ 1.18
第3四半期	106.20	△ 1.42
第4四半期	104.49	△ 1.71
R2年	106.73	△ 2.26



景気動向指数

新型コロナウイルス感染症の影響により全体として下降した。

- (1) 福島県景気動向指数(CI一致指数)は下降した。

【 詳細は P.54に掲載 】

(単位: ポイント)

	CI一致指数	前期差 前年差
第1四半期	61.4	0.2
第2四半期	49.4	△ 12.0
第3四半期	50.2	0.8
第4四半期	57.7	7.5
R2年	57.7	△ 3.5

(四半期値及び年値は期末値)

